

ろうさん彩登

サチャ トト

埼玉県勤労者山岳連盟

機関紙：発行責任者 武笠真次
編集 小松勝浩

〒330-0063
 さいたま市浦和区高砂4-1-5ふじビル2階
 TEL・FAX 048-838-0640

<http://www.tozans.justhpb.jp/>

9号目次

P1：46期第2回評議会議事報告

P2：県連の動き

P4：登山学校「雪山入門」参加報告

P6：2013年度 第6回救助隊役員会報告

P7：猪熊隆之氏の天気図講習会に参加して

P8：岩ネット1月参加報告

P9：安全登山講習会「ツェルトの張り方」参加報告

46期第2回評議会議事報告

2014.1.19 与野コミュニティーセンター PM1:30～4:30

評議会の運営 資格審査報告及び評議会成立確認について

出席 評議員数(10名)で過半数に達せず不成立のため議事だけ進行する。

また各専門員会の担当者も欠席のため 第46期活動報告 第47期活動報告案審議されませんでした。＊この件に関して欠席理事、各山岳会の評議委員の出席を最優先でお願いします。三役の理事さんよろしくをお願いします。

出席理事 武笠理事長 木村事務長 佐藤副 加納副 水谷 高橋 嶋田 久保

議長 加納理事 書記 高橋理事

議事審議

46期2013年度活動報告 武笠理事長 ・議案書通り

＊ホームページや登山学校を通じてヤング、中高年の意見を繁栄し、また交流ハイク等を積極的行い会員拡大した。
 ＊安全登山をさらに確立するために安全登山講演会遭難防止担当者会 登山学校そのほかの専門委員会を通じて今後も継続する。

事務局活動報告 木村理事 ・議案書通り

＊会員数が665名で28名会員数が増加した

＊安全登山講演会 金講師の奥多摩での救助活動の遭難事例の講演62名参加

女性委員会 久保理事 ・議案書通り

＊第13回東日本女性登山集会 10月13日～14日(南会津)参加者13名

＊2014年2月2日 あなた ツェルトが張れますか 長瀬元気プラザ

遭難防止・安全教育 水谷理事 ・議案書通り

＊h25年6月16日21名 h26年1月19日12名 それぞれ参加

自然保護委員会 加納理事 ・議案書通り

＊春の植樹デー 旧足尾銅山 4月28日 46名参加

＊クリーンハイク 5月26日 199名参加

＊東北支援活動10月19日～20日19名参加3月15日～16日予定

ハイキング委員会 佐藤理事 ・議案書通り

＊ハイキングABC(改訂版)発行6月

＊関東周辺ハイキング交流会 9月28日13:00～全国事務所 埼玉3名参加

＊天気の見方 2014年1月26日 59名参加

ブロック協議会の活動報告については 議案書通りです。

2014年活動方針案は各委員会とも 議案書通りです

＊意見として評議委員よりしっかりまとめて欲しいとのこと

記 書記 高橋





委員会活動報告

全国連盟活動

1/28新特別基金運営委員会 26件審査 1件保留
 北海道：ニセコにて死亡事故1件
 京都：富士山にて死亡事故2件
 2/15～16 全国連盟総会代議員 武笠、木村、加納（2/15傍聴）
 全国理事：継続（伊藤、大澤）新（久保）各委員会（武笠、柴山、佐藤）

県連全体活動

1/19評議会 過半数未満の為、不成立

事務局

評議会資料作成
 ○次回 三役会議：平成26年2月4日（火）場所：浦和コミセン
 ○次回 理事会：平成26年2月26日（水）場所：浦和コミセン

機関紙

1/8 8号発行、 2/12 9号発行予定、毎月第2水曜に発行 原稿は1週間前迄

組織

・全国連盟より調査書 締切1/31 意見のある方は1/30 PM5：00まで事務局長

ホームページ

機関紙掲載 年頭のあいさつ

女性

2/2安全登山講習会「ツェルトの張り方」（長瀬げんきプラザ）
 前日2/1 救助隊より8名 女性委員会スタッフ9名
 当日24名参加予定

ハイキング

・1/26ハイキング講習会「天気の見方」講師：猪熊隆之氏
 当日は15団体59名の参加者がありアンケートでは33枚回収全ての方が解りやすかったとの回答でした。
 ・1/28委員会 ・2/26委員会予定
 ・「ハイキングABC」215冊売却

自然保護

・3/14～16石巻支援活動
 2/10締切⇒2/20に延期 現在11名その他5名参加予定 定員30名
 多数の場合は調整（新座より10名の参加希望あり）

遭難防止・安全教育

・1/19遭難防止・安全教育担当者会議（武蔵浦和コミュニティセンター） 7名参加+5名理事 計12名
 事故事例3件紹介、来期セルフレスキューのPR

財政

連盟費今期分 2/末にて締切

県連の動き

委員会活動報告

登山学校

- ・1月雪山入門 1/18机上25名参加、運営委員10名、1/19実技21名参加、運営委員9名、於：那須岳
- ・次回運営委員会2/3 閉校式2/8（カルタスホール）
- ・19期の募集開始 各会からの参加呼び掛けの要請

救 助 隊

2/1～2/2女性委員会主催講習会 講師派遣
2/3役員会
2/22～23関東ブロック深雪搬出訓練（谷川岳） 6名参加予定
4/7 総会 浦和パルコ10F 会計精算2/末

岩ネット

1/25日和田山 参加者 7 名、次回：2/15日和田山

山スキーネット

3/9神楽峰 案内を機関紙

ブロック活動報告

西部＝ブロック会議 2/13 2/23スノーシュー交流ハイク
南部＝ブロック会議 1/23 3/8、9雪山交流山行 谷川岳土合周辺
中部＝ブロック会議 1/15 次回3/5ブロック会議 3/15～16の雪山交流山行計画
北部＝ブロック会議 なし

加盟団体活動報告

加盟団体の総会予定
3/30峠山の会、4/6新座山の会、4/6上福岡山なみHC、4/13三郷山の会

山スキーネット

2014.03.09
山スキー交流山行
募集中詳細は
ホームページにて

※昨年の山スキーネットの様子について熊谷トレッキング同人HPに掲載されております。ご参照ください。

http://www.kumatrek.jp/mt_ski/ski_frame.htm



登山学校

第8回 「雪山入門講座」第18期登山学校受講生 長谷川 操 記

2014. 1. 18 (土) 机上講習9.30~15.00与野下落合コミュニティセンター

机上講習はプロジェクターを活用し、小松講師の解説、高橋講師の道具の使い方で行われました、天気図の見方、そして明日の天気は、一時雪が降り山の上では、-12度、風速20m、体感温度は相当低いと予報、山装備の靴、ピッケル、アイゼン、ビーコン、着衣の使用方法、歩き方、雪山のリスク等の説明があり、最後にビーコンを使い遭難者捜索の訓練全員で行ないました、明日は初めての雪山体験となります。

1. 19 (日) 晴 10.30~15.30 実技 雪山体験 栃木県 那須岳 茶臼山

初めての雪山、ピッケル、アイゼン、目出し帽、ゴーグル、グローブ、スパッツ着衣と何事も始めてづくし、那須のお菓子工場に着衣、道具を身につけ再びバスに乗り、ロープウェイ駐車場に着き、さあ出発となったが、ピッケルの安全保護具がつけたまま、指摘うけ素手で取外したら手が寒さで痛くなる、もう昨日の講習を忘れている、ピッケルを使い耐風姿勢の訓練をし、仲間5人が前後を講師挟まれ出発駐車場を過ぎた辺りから雪があり鳥居まで来たら鳥居が3分の1しか出ていない、風雪が吹雪くなか壺足、キックステップで登って行く、前の人の足跡を踏みながらというのが、崩したり、スッポ抜けたり、登りはキックステップで蹴りを入れというのが、うまく蹴りが入らずズリ落ちる、雪景色を見ながら歩く余裕もなく、前の人に着いて行くのが精一杯、自分は気がつかないが睫毛が凍っていると言われる、

本格的な登りに入ったら強風が唸りをあげ吹雪いており、寒さもきつくなりなり止まっていると体が冷えてくる、時々強風が吹き重心を低くしピッケルを雪中に差込体を支えないと飛ばされてしまうほどの強風にさらされる、途中でアイゼンを履くこれがまた薄手袋でやるので、手が冷たく痛くなる、ごうごうと唸る強風の中ピッケルで体を支えながら第1到達点に着く、集合写真を撮り即引き返す、強風20mと-12度、体感温度30度では、ここまでで限界とのことで下山する、鳥居近くの休憩所でアイゼン外し、吹雪く寒い中で昼食をし、弱層体験見学し、坂で腰滑りこれまた気分爽快、さらにラッセル体験をし、バス到着、ホットする、初めての雪山体験で、きつい面もあったが終わって見れば、気分爽快、また、雪山体験したい。



登山学校

第8回 「雪山入門講座」 第18期登山学校受講生 福島 秀佳 記

「机上講座」 1月18日(土) 午前9時半～午後3時 場所・下落合コミュニティセンター
小松運営委員、高橋運営委員から次の内容で「雪山入門講座」の講義があった。

- ① 山のシーズン、雪山の楽しみ方
- ② 雪山の装備
- ③ 雪山の計画、計画書作成の重要性
- ④ 雪山の初歩技術、雪道の歩き方
- ⑤ 雪山のリスク
- ⑥ 雪崩について



初心者が雪山に入る時は、3月～5月ごろに経験を積むのがよいとのこと、決して1人では行かないこと、経験者と一緒に行くこと。また、二つ玉低気圧による遭難事故が多発しているので事前の天候確認が必要とのこと。

登山靴の種類、ピッケルの名称・種類、アイゼンの種類、ワカンとスノーシュー等の説明があった。ウェアについては「汗の処理」「速乾性」「保温力」を考慮した重ね着が重要とのこと。また、手袋については三層とし、飛ばされない工夫、予備の手袋の持参等の説明があった。雪崩に遭遇した時のビーコンの使用方法について、三人ずつのグループで実際に使って体験した。ピッケル、アイゼン等装備を持っていない人は、運営委員から借りて、翌日に向けて装備を整えた。その後、翌日の雪山実技に向けて四班に分かれ、班の役割分担を決め、終了とした。

「雪山実技」 1月19日(日) 栃木県・那須岳 晴れ

一班のメンバーは、運営委員が伊藤さん、八木原さん、班長に山本さん、他に榎本さん、高林さん、手塚さん、福島五人。

朝6時半に柳瀬川を出発、7時に北浦和を經由して、9時15分に那須のお菓子の城に到着。バスの中で小松運営委員から、今日の那須岳の天候を事前に確認してきたかとの質問に、生徒の中で確認してきた人が2名だけだったことに、昨日の講義がいかされていないことに注意を受けた。

お菓子の城駐車場で装備を整え、大丸駐車場(標高1350メートル)へ車で向う。風が強く、氷点下マイナス3度ぐらい。10時20分、大丸駐車場を班毎に出発。那須ロープウェイ山麓駅、峠の茶屋駐車場を通過し、登山道入口(登山指導所の建物のある所)に11時半に到着。途中、急な斜面の登りでキックステップを使いながら登る体験をする。ここでアイゼンを付ける。氷点下マイナス10度。

登山道入口を11時50分に出発し、峰の茶屋跡へ向う。途中、風が強く、何度も耐風姿勢で体が飛ばされないようにする。午後一時ごろ峰の茶屋跡(標高1720メートル)に到着。非常に風が強く、風速20メートルぐらいあったのではないかとすぐに来た道を下山。

登山指導所の建物があるところで、雪崩の原因である弱層のテスト、確認を行う。

午後三時、全員無事に大丸駐車場到着。バンザイ。お疲れさまでした。

今回の雪山実技で感じたことの一つ目は、自然の凄さ、そのための天候の事前確認の必要性。二つ目は、装備の重要性、特に手袋の装備をしっかりと整えること。三つ目は、寒いなか、手袋をしたままでアイゼンを早く付けることの重要性を強く感じた。今後は、この経験を生かし雪山登山を楽しんでいきたい。

以上



救 助 隊

2013年度 第6回救助隊役員会報告

日時・2014年2月3日(月) 19:30～21:00 場所・浦和パルコ 9階

出席確認

武笠真次、柴山利幸、水谷克明、長谷川貞子、若木由和、尾手利雪 11名中 出席6名

日程予定

2014年2月3日(月) 役員会 浦和パルコ9F 19:30～21:00

2014年2月22日(土) 23日(日) 関東ブロック救助隊深雪搬出訓練

2014年4月7日(月) 救助隊総会 浦和パルコ10F 19:30～

報告

1. 11月10日(日) 岩場の搬出訓練 場所 岳嶺岩

参加者 柴山利幸、水谷克明、浅見政人、安田秋雄、木阪康弘、渡辺敦司、
柿田善広、長谷川貞子、町田週一

内容 懸垂下降での搜索訓練

安全を重視した機器の操作技術確認

2. 12月2日(月) 雪上搬出技術学習会 場所 浦和パルコ10F

内容 工作班、搬出班、後方班体制の訓練

3. 12月8日(日) 雪上搬出訓練 谷川岳 白毛門登山口周辺

参加者 柴山利幸、安田秋雄、渡辺敦司、柿田善広、長谷川貞子、久保典子

内容 工作班、搬出班、後方班体制の訓練

4. 2月1日(土) 女性委員会より支援準備 場所 長瀬げんきプラザ

参加者 柴山利幸、水谷克明、木阪康弘、渡辺敦司、柿田善広、長谷川貞子、
尾手利雪、久保典子、羽竜智、若木由和

5. 2月2日(日) 女性委員会「ツェルトの張り方」支援 場所 長瀬げんきプラザ

参加者 柴山利幸、水谷克明、木阪康弘、渡辺敦司、柿田善広、長谷川貞子、
尾手利雪、久保典子、羽竜智、塩田利之、若木由和、

議題

1. 関東ブロック深雪訓練

日時 2014年2月22日(土) 23日(日)

場所 谷川岳 土合周辺

主管 千葉県連 救助隊

参加予定者 尾手利雪、長谷川貞子、柿田善広、渡辺敦司、羽竜智、谷脇京子

2. 総会へ向けての準備

日時 4月7日(月) 19:30～21:00

場所 浦和パルコ10F

議案書 役割分担 来期役員体制 3月22日(土) 印刷

次回2014年4月14日(月) 浦和パルコ9F 19:30～

ハイキング**猪熊隆之氏の天気図講習会に参加して**

ハイジアルペンクラブ 坂田喜代美

平成26年1月26日 於東大宮コミュニティセンター

今夏に入会して間もない私ではございますが、以前から天気図の見方がわからず困っていた所の講習会でしたので、大変うれしく思い楽しみにしておりました。また、猪熊氏の「山岳気象大全」を拝読しているジャストタイミングでありました。

学生時代、夏山テント縦走の際ラジオを聞きながら天気図を書く、大変重要な事とも知らずに、また読解力も無く顧問の先生に怒られていた気象系の私です。ここ何年かで山登りを再開するようになって、気象庁の登山天気やピンポイント天気、ライブカメラ等々のネットは大変便利に使っておりました。

しかし、いざ登山してみると予想に反して好天の時は良いとしても、予想より悪天候になってしまったら、決して安全な登山とはいえません。

今回の講習では、気圧の谷や尾根から上層で吹いている風を知るという、初歩から丁寧に説明して頂きました。そして、大気中の水蒸気は風によって流されるもので、風の流れて低気圧や高気圧が流されながら移動していく。

風の向き（山の風上側）と等圧線の混み具合で悪天候を予測するというのを、実際にそれぞれが考えてみるという実習もさせていただきました。

さらに、風上側の天気予報の見方、そして3つのポイント予報から低気圧通過後に日本海側や脊梁山脈の山岳では大荒れの天候になり気象遭難（低体温症）のおそれが多くなることを、過去の山岳遭難の実例をあげて細かく説明して頂きました。

ふだん私達が見る地上天気図は高層天気図とは違うそうで、2000M迄の山までしか使えないようで、3000M級は高層天気図の風の向き強さを見てほしいとのこと。特に私の中で印象に残ったのは、温帯低気圧が東へ進行するときは急速に天気が回復するが、北寄りに進行する時は荒天が続くという所です。

二年前に太平洋側と日本海側に低気圧が北寄りに進行していった、あの爆弾低気圧通過後のさなか残雪期の北八つに突入し、愚かにも撤退したのは無知で経験不足の私でございました。

他にも落雷による遭難事例、実際に稜線でどうしたらいいか？今までは這松に逃込むだけしか知らなかったが、寝そべらず出来るだけ低い姿勢で両足を閉じ(感電を防ぐ)両耳(鼓膜を守る)を塞ぐということも学びました。



岩ネット

冬の岩ネット

三郷山の会 磯野京子記

平成26年1月25日(土)

例年より寒いこの冬、大寒と重なってかなりの寒さを予想しての参加申し込みでしたが、なんと、当日の予報は4月並みの陽気?・・・

朝8時高麗駅に、初心者でもあるし、前回遅かったこともあって少し早めの到着です。9時、日和田山ゲレンデに集合。水谷講師を含む、男性4名、女性4名。保険関連の署名をして、自己紹介が終わり、装備の装着すませると、支点を取るため南面を水谷講師が登って行きます、見てみると、手が冷たいようす。「やはり寒い、4月の陽気は?」ロープを1本南面に垂らしていただき「あそこ登れるかな?」内心思いつつ、ロープの真下をベテラン組が岩に触る手が冷たいと言いながら、すいすい、難無く登って行きます。先輩に登り易い所で良いですよと言われて、さあ、私の番です、ロープの真下は無理ですので。少し左よりのコースに挑みます。前回もこのコースは登っていますが、「あれ、岩が成長した?」何故か始めの一步は岩が大きく、迫って見えます。

ベテラン組は難度の高いコースに移り、初心者組は、始めのコース一回ずつ、支点を変えてやや難度の低いコースを二回ずつ登りました。体も大分温まり、時間の経つのが早く、もう昼時です。

午後、寒さ感が無くなり、西面の易しいコースと言われて岩に取り付くと、「手はどこ?足はどこ?届かないよー」等、言いながら、その度、赤いレーザーライトで助けて頂き楽しいクライミングでした。

水谷講師には、いつも初心者向きに優しく、丁寧に指導していただきありがとうございます。岩の掴み方、岩に対しての手の向き、力が入る指と腕の使い方、靴底着地面の感覚、そして、体重移動等、ありがたい助言です。講師自身、ご自分の為に登ること無く、ベテラン組を気に掛けながら、私達の為にたくさんの時間を割いて頂きました。これからも教わった方法を大事に思い参考にして、楽しみながら前に進みたいと思います。

参加者：彩の山友会2名・所沢ハイキングクラブ2名・飯能勤労者山岳会1名

三郷山の会3名：計8名

次回岩ネットは2月15日土曜日に開催します。



女 性

ビバーク講習会に参加して

ハイジアルペンクラブ 大塚貴子記

お守り代わりにツェルトをいつも持って歩いてはいたものの、はたしていざという時に使えるのか、実際に使ってみるとどんな状況なのか等々、不安に思い続けていて、なにかあったらくるまって過ごすか…とっていました。いつか機会があったら実際にちゃんと山で張ってみたいと思っていた矢先に、今回の講習会のお知らせが届き、参加させていただきました。

講師の方々が色々な張り方を実際に見せてくださると、なるほど…となんとかイメージできたのですが…実際に森の中に入り、快適に休めそうな場所を探してみると支えになる木はたくさんあるのにここ！というよさそうな平らな場所がなかなか見つからない。そして、目に焼き付けたはずの講師の方々の張り方をやってみると、うまくテンションがかからず、なんか違う…ロープの結び方も…、あれ？



やっぱり見るのと、やるのとでは大きな違いがありました。

実技の時間中、ひとつひとつ一緒に張りながら丁寧に教えていただき、なんとか自分の持っている装備を使って張ることができました。講師の方が道々拾って集めてくれたペグ代わりの木の枝が思った以上に効果を発揮するということも体験でき、大きな収穫だったように思います。実際に張り終えたツェルトの中に入ってみると、寝るのには十分な空間が確保でき、さらに傘やストックを使えば快適性も求めることができるということが実感できました。場合によってはテント代わりに十分使えそうだということも感じ、山行形態の可能性も広がったように思います。

実際にビバークが必要な状況に遭遇してしまったら、こんなに冷静にはいられないであろうし、条件ももっと厳しいものになるのでこんなにうまくはいかないとは思いますが、とりあえず、自分の持っているものでこれだけのことができるぞということが体験できたのはとても大きなことで、お守りが立派な山のツールになったように思います。今度は一度実際にツェルトを張って泊ってみなくては…

ツェルトを実際に張ったことのないメンバーがほとんどだった中、ひとつひとつ丁寧に教えてくださった講師の方々、準備を進めてリードしてくださった女性委員の皆様、こういう機会をもうけて下さり、ありがとうございました。

おかげさまであっという間に時間が過ぎ、充実した講習となりました。ここで得たものを忘れないようにしなければ…(^_ ^)